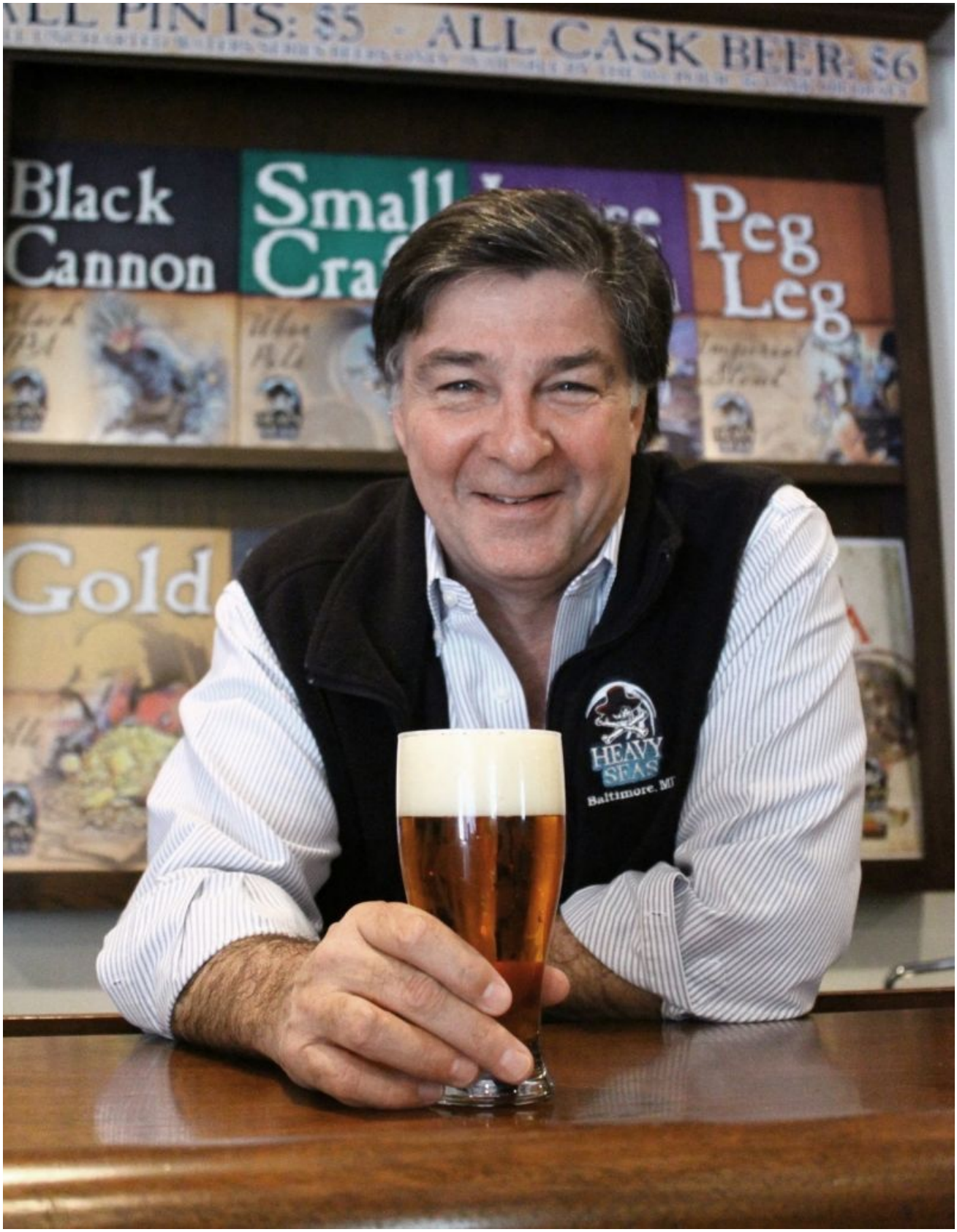
vinetur

Heavy Seas Beer、メリーランド州で連邦破産法第11章の適用を申請

負債総額が430万ドルを超えるHeavy Seas Beerは、営業を続けながら裁判所の監督下で売却や合併先を探す。

2026年11月13日（金）



メリーランド州のクラフトビール醸造会社Heavy Seas Beerは、法的にはClipper City Brewing Companyとして事業を営んでおり、11月8日、メリーランド地区連邦破産裁判所に連邦破産法第11章の適用を申請した。Breweries in PAが、裁判所の記録や他の地元メディアの報道を引用して伝えた。

この申請により、メリーランド州でよく知られる独立系ビールブランドの一つが、裁判所の監督下

で再建を目指すことになった。クラフトビール醸造会社の多くが、販売の低迷、コスト上昇、飲酒習慣の変化に直面するなかでの申請となる。Breweries in PAは11月12日木曜日、The Baltimore Bannerが確認した裁判所提出書類に、負債総額が430万ドルを超えると記載されていたと報じた。同紙によると、そのうち230万ドル超はWells Fargoに対する債務だった。

Heavy Seasは事業終了を発表しておらず、再建を進める間も醸造所の営業を続けている。Breweries in PAによると、申請の目的は、地元の別の醸造会社への売却や合併を模索する時間を確保することだという。同報道は、同社の弁護士Paul Sweeney氏がThe Baltimore Bannerに対し、破産手続きによって複数の候補先との協議を続ける余地が生まれると述べたと伝えた。また、創業者Hugh Sisson氏の娘で同社マーケティングディレクターのCaroline Sisson氏も、申請によって事業の時間を確保できると同紙に語った。

今回の手続きの対象となる醸造所は、30年以上にわたってメリーランド州のクラフトビール業界を支えてきた。Hugh Sisson氏は1995年、ボルチモアの南西に位置するハレソープでClipper City Brewing Companyを創業した。その後、同社はHeavy Seasブランドを軸に知名度を高め、クラフトビール市場の拡大を背景に、2003年にはアルコール度数の高いビールを発売した。2005年に発売されたLoose Cannon IPAは、同社の主力商品となった。新しいブランドが従来のClipper CityやOxfordのブランドを上回る規模に成長したことを受け、同社は2010年に社名を正式にHeavy Seas Beerへ変更した。

Heavy Seasは長年、地域のクラフトビール市場で存在感を示してきた。2014年には60バレルの醸造設備を導入して生産能力を拡大し、2017年にはタップルームを開設した。業界での評価も高く、Beer Connoisseur Magazineは2017年に同社を全米最優秀醸造所に選出した。Breweries in PAによると、2024年にはLoose CannonとHazy CannonがU.S. Beer Tasting Championshipで全米チャンピオンに選ばれた。

しかし、近年、同社の生産量は大きく減少している。Brewboundはメリーランド州の税務データを引用し、Heavy Seasの生産量は2019年に51,380バレルだったと報じた。2023年には26,528バレル、2024年には24,551バレルに落ち込んだ。2023年から2024年にかけての減少は1,977バレル、率にして7.45%だった。2019年との比較では26,829バレル、52.22%の減少となる。これらの数字だけで破産申請の理由が説明できるわけではないが、11月8日の申請に先立って生産量が長期的に減少していたことを示している。

今回の申請は、米国のクラフトビール市場が、地域に根ざした老舗醸造会社にとって厳しさを増すなかで行われた。かつて急速な事業拡大を支えた販売の伸びは鈍化し、多くの生産者が原材料費、人件費、流通コストの上昇に直面している。消費者の支出先も、蒸留酒、RTDカクテル、ハードセルツァー、ノンアルコール製品など、より幅広い酒類・飲料へと移っている。Breweries in PAによると、Heavy Seasは申請の背景として、全米でのクラフトビール販売の減少と、30年以上にわたる経営を経たHugh Sisson氏の引退予定を挙げた。

今回の再建手続きに先立ち、同社の事業戦略は不透明な時期を迎えていた。Brewboundによると、Heavy Seasは2025年10月、Yards、Two Roads、Bald BirdsとともにB3 Beverage Companyに加わると発表した。この提携は、複数の地域クラフトビール醸造会社が規模を拡大する手段として説明されていた。しかし、Brewboundはその後、2026年8月にHeavy SeasとTwo RoadsがB3を離れたと報じた。Breweries in PAによると、Sweeney氏はThe Baltimore Bannerに対し、最終的にB3との取

引は成立しなかったと述べた。

Heavy Seasの破産申請は、近隣のGuinness Open Gate Breweryが閉鎖された月にも行われ、ボルチモア周辺のビール業界の厳しさが際立つ形となった。ただし、両者の状況は異なる。Heavy Seasが申請した連邦破産法第11章は、債務の再編や売却・合併の交渉を進めながら、事業を継続できる制度だ。現時点で最終的な取引は発表されておらず、売却や合併が成立したとの公表もない。

同社の法的な社名と報告された負債額は、クラフトビール業界全体で進む再編の流れのなかに今回の申請を位置づけるうえで重要だ。タップルームへの集客やスーパーマーケットでの販売を通じて成長してきた小規模・中規模の醸造会社は、販売量が落ち込むと、提携や合併、事業売却に踏み切るケースが増えている。Heavy Seasには、広く知られたブランド、ハレソープの生産拠点、メリーランド州の小売店やバーで長く親しまれてきた商品がある。地元メディアが伝えた同社関係者の発言によれば、協議に関心を示す相手が複数いるという背景には、こうした資産があるとみられる。

裁判所の監督下で進む連邦破産法第11章の手続きは、複数の展開が考えられる。債務を再編して同じ所有者のもとで事業を続ける場合もあれば、裁判所の監督下で資産を売却したり、別の事業者と合併したりする場合もある。Heavy Seasの申請は、醸造所の営業を続けながら、こうした選択肢を確保することを目指しているようだ。今後の展開は、債権者との交渉、入札手続きの進み具合、そして買い手や提携先が醸造所のブランドや設備に十分な価値を見いだして取引に応じるかどうかに左右される。